

主体的に学習に取り組み、学び合い、高め合う児童の育成

～自己の学びを実感し、考えを広げ深める授業の創造～



- 学校名 久喜市立砂原小学校
- 所在地 久喜市砂原1丁目4番1号
- 電話番号 0480-58-1614
- E-mail sunahara-e@kuki-city.ed.jp
- ホームページ <http://www.kuki-city.ed.jp/sunahara-e>

1 研究主題

(1) 研究主題

主体的に学習に取り組み、学び合い、高め合う児童の育成
～自己の学びを実感し、考えを広げ深める授業の創造～

(2) 研究主題設定の理由と研究の経過

平成28・29・30年度埼玉県教育委員会より「考え、話し合い、学び合う学習」普及のための実践協力校事業、平成29・30年度久喜市教育委員会より研究の委嘱を受け、思考ツール等を活用した学び合い学習を進めてきた。

平成30年度埼玉県学力・学習状況調査の結果から、学力のレベルでは、県平均レベルと比較し、6年生では-1ポイント、4,5年生では±0～1ポイント上回った。学力の伸びでは、5,6年生とも県平均よりも1ないし2ポイント高くなっている。下位層の児童の学力の向上とともに、29年度の結果から課題となった上位層の学力の伸びにも改善が見られ、本校での取組の成果の一端を見ることができた。しかし、①基礎基本は身につけてきているが、活用することが苦手である。②自分の考えを、理由をつけて発表することに苦手意識がある児童がいる。③間違えたり笑われたりするのを心配して、意見を出すことに抵抗を感じている児童が4割以上いるという実態が明らかになった。

そこで、今年度は、すべての児童の学びをより確かなものにしていくために、指導の工夫の有効性を検証し、今後の指導の方向性と改善案を示し、授業改善をさらに進めていく。

(3) 目指す児童像

自ら解決方法を見通し、他者と関わり学び合いながら課題解決できる児童

(4) 研究の仮説と主な手だて

ア 仮説1

基本の学習過程を徹底すれば、主体的に学習に取り組む児童が育つであろう。

<手だて>

- ①導入の工夫：学習問題の提示の仕方を工夫する。見通し（結果、解決方法、学習参加）等を持たせる。何がわかって、何がわからないかを明確にする。
- ②学習の振り返り：学習内容のとらえ直しや学び方のとらえ直し、学びの診断・評価等、学びを実感させ、自己の学びの過程を明確にしていく。

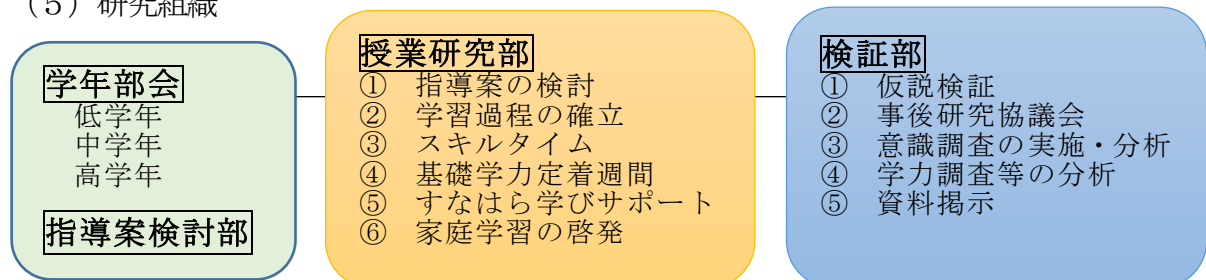
イ 仮説2

思考の可視化・操作化する学習を積み重ねれば、対話的な学びが身に付き、自分の考えを広げ深めることができるであろう。

<手だて>

- ①ペア学習やグループ学習に積極的に取り組む。
- ②思考ツールを活用し、思考の可視化、操作化を図る。

(5) 研究組織



2 研究の実践

(1) 授業研究部の取組

基本の学習過程の徹底

めあて・見通し

【課題をつかむ】

本時の学習における問題を確認し、課題を把握する。(本時の学習の確認)

より具体的に問題場面をとらえ、本時はどのような学習をするのか確認する。

〈例：4年社会〉児童の思考を促す導入
同じ場所で撮影された新旧の写真をクイズ形式で出題する。児童にとっては古く見えるであろう写真が新しいという意外性から、課題を立てていく。



【見通す】

どのように学ぶか、自分はどうなのか意識する。

- ・手順
- ・解決への手立て
- ・方法
- ・結果への期待 等

〈例：2年算数〉

生活場面から、水のかさの計量の問題点を提示し、全員で解決方法の見通しを持つ。



学び合い

【思考の可視化】

考えが見えるようにする。

思考ツールや付箋の活用

自分で考える



自分の考えを付箋紙に書いてみよう。こんなに考えたよ。

グループのみんなの考えをマトリックス図にまとめよう。



小グループで考える

【思考の操作化】

個人の意見や考えをグループや学級全体で練り上げる。

全体での話し合い



同じ考えは、付箋を重ねるんだよね。

友だちの考えを聞いて初めて分かったよ。

まとめ・振り返り

【まとめ】

本時で学んだ内容や方法を整理・確認をする。

【振り返り】

児童一人ひとりが授業によって得た自己の学びを捉え直し、振り返る。

児童一人ひとりが自分の学びを振り返る(自分と対話する)時間を大切にしたい。個にもとって、本時の学習によって、分かるようになったことや自分の中に起こった変化、成長などを記述する。



(2) 検証部の取組

仮説検証シート

授業研究会後に研究協議を実施し、児童の学習の様子を分析し、指導の工夫（手立て）は有効であったかを検証するために、検証シートを作成し活用した。

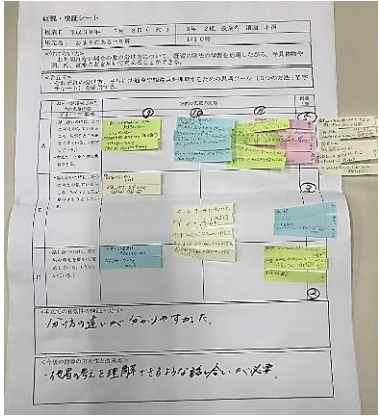
検証シート①(記述)

観点をしぼり、児童一人ひとりの実態を把握する。

教師が話し合い活動のグループの児童一人ひとりが発した言葉を付箋に記入する。



その結果を用いてグループ協議で検証する。



検証シート②(マトリックス)

8人程度の児童について、マトリックスを使って、2〜3つの観点についての実態を把握する。



仮説・検証シート		平成 年 月 日 ()		() グループ				
単元名:		/ 時		年 組 授業者				
<付けたい力>				<手立て>				
場面	評価	A	B	C	A	C	備考	(A) 授業参加率 (B) 発言回数 (C) 発言内容 総合評価
児童の様子	ねたまされの姿							
砂原 太郎								
砂原 花子								
合計								

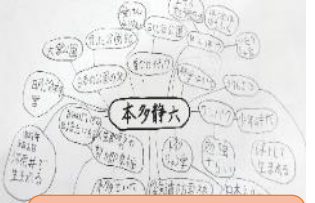
思考ツールの活用



ピラミッドチャート



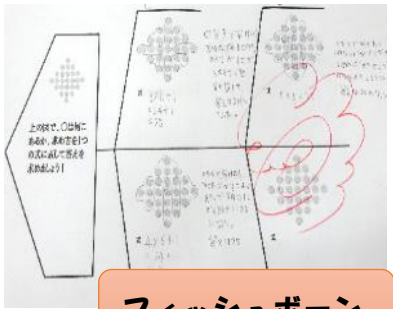
ベン図



イメージマップ



Yチャート



フィッシュボーン

3 研究の成果と課題

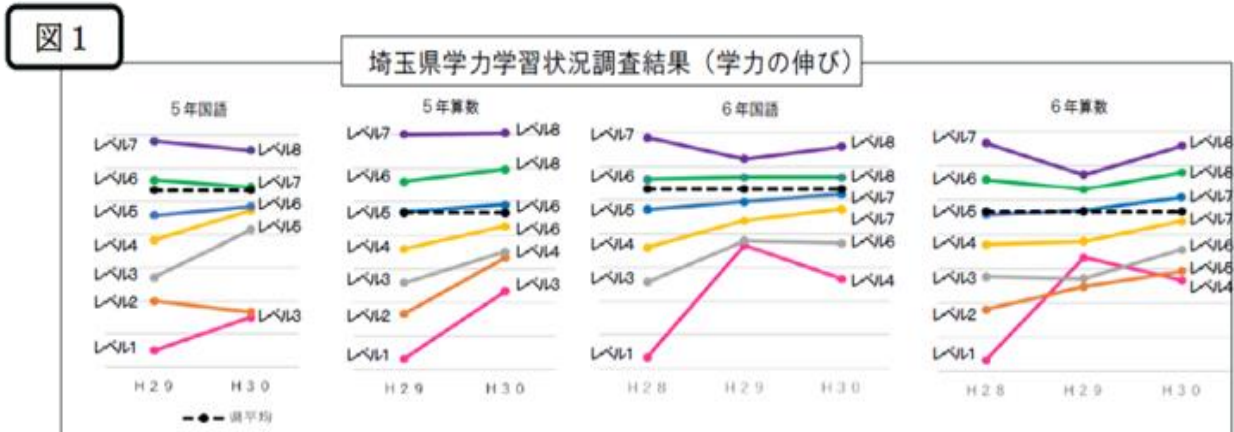
(1) 埼玉県学力・学習状況調査の結果から

ア 成果

- ① 学習過程がしっかりと児童に定着し、学び合い学習の質の向上が見られ、一人一人の学習意欲の向上が図れた。
- ② 5年、6年ともに昨年度からの学力の伸びが県平均を上回った。授業の中で、思考を可視化し、学び合い学習で児童が自分の考えを持ち、他者と関わり合いながら積極的に課題解決に取り組む学習を積み重ねたことで、主体的に学習に取り組む児童が増え、着実に学力を向上させた成果であると考えます。
- ③ 図1より、学力下位層の児童の学力の伸びが著しい。スキルタイム（業前）やすなはら学びサポート（放課後補習学習）の取組から、着実に学習の基礎基本が身につけてきている。

イ 課題

- ① 学習の見通しと振り返りをさらに深め、自己の学びや伸びを実感できる授業の実践を行っていく。
- ② 今後、さらなる学力向上に向け、研究の成果を持続・発展させ、児童自ら様々な課題を見出し、主体的に学習する児童の育成を図っていく。



(2) 教職員の学習活動に関するアンケート調査から

ア 成果（学び合い学習の研究を通じた児童の変容）

- ① 話し合うことに抵抗感がなくなり、教えること伝えることが好きな児童が増えたこと。
- ② 思考ツールを使いこなし（特に付箋の活用）、思考を可視化・操作化で理由や根拠を明確にし、より深い学びができるようになったこと。
- ③ 学級全体で学習課題へ積極的に取り組む姿勢がより見られるようになったこと。

イ 課題（研究から見えた児童の課題と方向性）

- ① 困難な問題や課題に対して、自力で課題解決する根気が足りない児童がいること。
- ② 自己の学びや成長を実感し、さらに自己肯定感を醸成し自尊感情を高めること。
- ③ 学び合う学習からグループや学級など集団で考える力についてはついてきたが、それをもう一度個人の考えとして思考を再構築すること。